

第4回 小学校教育の現状と今後の在り方検討委員会 会議要旨

- 1 日時 平成29年11月28日(火) 9:30~11:00
- 2 会場 東京都庁第一本庁舎42階 特別会議室A
- 3 出席者 坂野委員(委員長)、小泉委員、藤崎委員、桶田委員、種村委員
出張委員(副委員長)、増淵委員、江藤委員、安部委員

4 議事概要

- (1) 第3回小学校教育の現状と今後の在り方検討委員会における主な指摘事項等について
- (2) 小学校教育の現状と今後の在り方検討委員会 提言(案)について
事務局から資料を説明後、意見交換

▽ 第2章 小学校教育の現状と課題

- 「児童の状況」を「児童の状況及び指導体制」へ修正する。
- 小学校における低学年から中学年への接続も大切な視点である。
- 「学級担任による指導体制を維持しつつ」を他の表現としてはどうか。
- 授業準備等の時間確保が困難なのは、勤務時間内でのことではないか。
- 教育の質の向上、教員の働き方改革について、もう少し具体的な表現としてはどうか。

▽ 第3章 解決に向けた提言

- 「就学前教育と小学校教育との一層の円滑な接続」の提言の内容や表現について、誤解されないような配慮が必要である。
- 専科の教員には、専門的な知識に加え幅広い教養があることが望ましい。
- 幼稚園においても、既存のシステムの中で、特別な支援を要する幼児への対応を行っている。
- 就学前教育における実態や成果と小学校教育との接続について、検証を行うことで、円滑な接続を図るための教育課程の作成へつなげていく必要がある。
- 具体的な内容についてだけでなく、心を大切にすること等、道徳的・倫理的な部分も大切にすることが必要ではないか。
- 教員が担うべき業務について、学習指導だけではなく、生活指導についても触れたほうがよいのではないか。
- ICTの活用については、メリットだけでなく、デメリットについても十分配慮する必要がある。
- 学習指導要領の改訂で示された、小学校におけるスタートカリキュラムの作成、充実とのつながりは含まれているのか。
- 本提言の内容を受け、東京都教育委員会においては、今後どのようなことが可能なのか、教育課程等の具体化や効果検証の方法等も含め、更なる検討を行ってほしい。